

9-9		主題	入浴サービス稼働率向上への取り組み	
入浴稼働率向上		副題	マイホームはるみ高齢者在宅サービスセンターの更なる飛躍を目指して	
研究期間	6ヶ月	事業所	高齢者在宅サービスセンターマイホームはるみ	
発表者：高橋 紫			アドバイザー：	
共同研究者：伊野 友行				
電 話	03-3531-7635	メール		
FAX	03-3531-7625	URL		

今回発表の事業所やサービスの紹介	マイホームはるみは中央区にある区立の高齢者在宅サービスセンターです。地域で暮らす高齢者の在宅生活を支援する入浴やリハビリなどのサービスを提供しています。
------------------	--

《研究前の状況と課題》 高齢者の在宅生活の中で増加し続ける入浴サービスを含む新規の利用申し込みと既存の利用者の追加入浴のニーズに応じるべく当施設では繰上げ入浴制度の導入や入浴外介助職員の増員等、様々な取り組みを行ってきた。しかし、依然需要は高まる一方で将来的には更に重度化してゆく状況も踏まえ、入浴稼働率向上は事業所として大きな課題のひとつであり、更なる取り組みを迫られていた。毎回入浴が確約できないと通所は難しいと新規申し込みや追加申し込みを取り下げるケースもみられた。このような状況を打開し、更に入浴希望者の受け入れの拡大を目指して新たな手法を提案し、入浴実績向上に向けて取り組むこととした。	《研究の目標と期待する成果》 第一に、入浴の稼働率をアップすること。入浴待機者数を減少し、より多くの利用者・家族のニーズに応えるようにすること。 第二に、安全で確実な入浴サービスを利用者に提供し続けてゆくこと。具体的な目標値としては一日あたり30名の入浴を目指し、ソフト面ハード面の両方からアプローチしてゆくこと。 第三に、新規利用者の確立を図り、更なる地域高齢者のニーズにも応えていくこと。
--	--

《具体的な取り組みの内容》

- ①入浴担当職員を3名から5名に増員した。
- ②入浴実施時間を拡大。入浴終了時間を 14 時 45 分までから 15 時 30 分に延長した。
- ③ハード面の改善
 - ・脱衣室面積の拡大。
 - ・プライベートカーテンを取りつけて男女の入れ替えを円滑にした。
 - ・備品（鏡・ドライヤー等）を購入し、浴後の整容をスムーズに行えるようにした。
 - ・入浴形態（機械浴→一般浴）の見直し・適正化を図り、機械浴利用者の受け入れを拡大した。
- ④週あたりの入浴回数の増加（独居等緊急度の高い利用者を週2回の入浴から3回へ変更した）
- ⑤入浴に関する書類書式の変更
 - ・入浴確認チェック表を見易くすることで、入浴案内をスムーズに行えるようにした。

《取り組みの結果と評価》

- ①②職員数と時間を物理的に増やすことによって大幅な入浴実施者数増加を達成することが出来た。（一日平均30名・最大34名）
- ③ハード面の改善
脱衣室での利用者同士の混雑する状況を変えることが出来、また男女の入れ替えが円滑に行えるようになったことでより多くの利用者が脱衣室を使用することが出来るようになった。またスムーズに案内出来ることで職員も介助がしやすくなり以前より入浴業務の効率を上げることが出来た。
- ④独居利用者などで皮膚を観察する機会が増え、ケアマネジャーとの連絡を密に取ることによって健康面での変化を早急に察知することが出来るようになった。
- ⑤書類の書式が見易くなったことにより入浴関連のひやりはっとが減少。実績入力 of 円滑化・効率化が図れた。
- ⑥利用率の向上（85%以上を保ち、曜日によっては100%を達成）

《まとめ》

入浴業務を改善したことにより、出来るだけたくさんの利用者のニーズに応えられるサービスセンターを目指したいという職員の思いが強くなった。事業所としては利用率自体の向上、新規利用者の受け入れ増大に大きく貢献出来たと言う手ごたえを感じられた。

《提案と発信》

デイサービスはどの事業所もそうであるが利用者の入浴のニーズが一番と言っていい程多い。より多くの利用者が入浴出来るようになったことで利用者・家族から大変喜ばれるようになった。利用者のニーズに応えてゆくことが利用率向上に繋がってゆくことを改めて実感した。改善後多くの職員からやりがいを感じると言う声が上がってきたことも大きな財産である。

【メモ欄】